

トッシーズン^トの北アルプスを歩く 燕岳～槍ヶ岳(表銀座)縦走

実施日	2009年8月2日(日)～5日(水)
天候	晴
リーダー	涌井 良明
参加者	馬場清士、涌井良明、鈴木政三、鈴木恵美子、金本英雄、佐藤金治(燕岳) 計6名
費用	JR 13,530円 タクシー 7,300円 宿泊費 17,000円 合計 37,830円
タイム	8/2 穂高(15:50 タクシー)中房温泉(16:20) 泊
	8/3 登山口(5:05)第一ベンチ(5:45～5:50)第二ベンチ(6:20～6:25)第三ベンチ(7:02～7:12)富士見ベンチ(7:47～7:55)合戦小屋(8:25～8:40)合戦ノ頭(9:00)燕山荘(9:50～11:00)大下りノ頭(11:55～12:05)休(13:00～13:15)縦走路分岐(13:43～13:55)大天荘(14:30) 泊
	8/4 大天荘(5:40)大天井岳(5:50～6:05)大天荘(6:30)大天井ヒュッテ(7:07～7:12)ヒュッテ平(7:45～7:50)赤岩岳(8:41～8:50)ヒュッテ西岳越(9:35～9:55)水俣乗越(10:55～11:05)休(11:50～12:15 昼食)ヒュッテ大槍(13:30～13:48)槍ヶ岳山荘(14:40) 泊
	8/5 槍ヶ岳山荘(6:00)飛騨乗越(6:07)千丈沢合流点(6:50～7:00)槍平小屋(8:20～8:45)滝谷出合・藤木レリーフ(9:23～9:33)白出沢(10:35～10:50)穂高平(11:22)新穂高温泉(12:00～12:05 タクシー)ひがくの湯(12:15～14:00 タクシー)松本駅(15:30～15:47)

当初予定の荒川三山が千枚小屋焼失のため、予定を表銀座に変更して実施した。今年は夏の天気が見れず、出発日も雨模様で先行きが心配されたが、何と山中ではこの夏随一(多分)の好天に恵まれて、素晴らしい夏山となった。

前泊でゆったり温泉につかり、翌日からの英気を養い、朝5時に中房温泉登

山口をスタート。空模様は久しぶりに見る青空でいい。第一、第二、第三、富士順調に高度を上げ、合戦小屋へ、早速小屋名物のスイカをかぶりつくメンバーもいて、夏山らしくな



金本さんは燕岳の往復を20分で済ませて来た。佐藤(金)さんは燕山荘泊なので、ここからは5人で縦走路に入る。

直ぐにコマクサが見られるが数はずいぶん少なくなった感じた、ガスが流れる稜線を右に裏銀座の眺めをお供に、大天井岳を目指す、花崗岩の道を蛙岩(ゲイリ)為右衛門吊岩などの大岩を抜けると、ちょっとした岩場を下った鞍部の切通岩を越して、トラバースルートで大天井ヒュッテと大天荘(山頂)経由の分岐へ出る。今日の泊まりは大天荘なので、山頂への道を登る、岩ガラの急登に行くが先方にライチョウの親子が現れ、しばし足を緩めるが、一匹しか見られなかった子ライチョウには何とか無事に育ってほしいものである。

14時30分、大天荘に着く、ガスが出て周囲の眺めはなくなっていたが、天候は悪化の様子はビールということになった。



肉と魚の選択制の夕食はうれしい小屋だ、混雑もなく快適である。明日の好天を期待して、Z z z...

8/4 夜明け前に外へ出てみると、既に秋を感じさせる星座が広がっていた。今日も天候は良さそうである、4時55分雲海の陰からお出ましになったご来光を見てから、朝食を済ませます。

6時に大天井
岳の山頂へ、ぐる
るっとさえぎる
ものない展望
は北アでも一
二だろう。寄り
道事件後、小屋
脇から槍への道



には6時30分に入る、槍ヶ岳を見ながら大天井岳のトラバースルートを進み、大天井ヒュッテに下る、ここからは灌木帯のトラバース道になり、花の種類も多く、暑さも遮られて快適な歩きとなる、槍までこんな道ならねえ！との声が出るが、その通りである。稜線に戻ってビックリ平の標識を見る、北鎌尾根を従えた槍ヶ岳を眺めながらの贅沢な道が赤岩岳へ続く。(但し荒天時はつらい道かも)

更に稜線を巻き気味に辿るとヒュッテ西岳の赤い屋根が見えてくる。やれやれである、残り半分程が今日の核心部となる東鎌尾根である、小屋から西に向かい下りになると直ぐに鎖、梯子が現れ手強い道になる、小さな登降や暑さも加わり疲労も増してくる。下り切った狭い鞍部が水俣乗越で、山口県の高中生パーティがテントの虫干しと槍沢へ水汲みをしていた、目の前に聳えるように立ち上がる急登に、疲労と暑さで気が重い限りである。一步一步が重く感じられ夏山のつらさを存分に味わうことになった。

途中、炎天の尾根で昼食にするが、ホントーにアツイ！！



東鎌尾根の一番のウリ？の痩せ尾根の栈道と長~い梯子の下りを通る、道は変化もあり近づく槍を励みにしたいところだが、疲労+暑さ+でリ

ーダーだけはピッチが上がらない。

痩せた尾根筋を小さい登降を繰り返しながら高度を上げていく、この道は変化はあるが裏銀座ルート of 西鎌尾根より、体力を消耗させる様に感じた。午後のがスが槍穂を包む様になって、多少の涼しさも感じながらも、相変わらず呼吸は荒く、ノッタリズムだ、もっと酸素を！！

それでも何とかヒュッテ大槍には13時半に到着した、タププリ水分補給をしてすっかりガスに隠されてしまった槍の

肩に向かう。涼しくなったのと傾斜も緩くなり、再び足元の花にも気を配る余裕も復活？してきた。槍沢からの道と合流すると僅かで肩の広場に着いた、大天荘から8時間の行程だった。

早速ビールとワインで宴を始めた2人を除いて、3人で槍穂へ、今回も展望は得られなかったがやはりテッペンにはそれなりに気持ち良かった。



なお、槍ヶ岳山荘にNHKの中継クルーが入山しており、5日の『おはよう日本』で山頂からの生中継の準備に忙しそうだった。(帰宅後にビデオでチェック)

8/5 6時に槍ヶ岳山荘を後にする、南岳方面へ少し下った飛騨乗越から、飛騨沢への下山道に入る、中腹に雲の帯をまとった笠が岳の稜線を正面に眺めつつ岩ガラのジグザク道を緑のカールの底を目が



けて下る。千丈沢乗越からの合流点を過ぎると徐々に樹林帯へ入って行き、いくつか水場(小沢)を横切る、後はひたすら下るだけの道となり、槍平小屋で大休止をして、濃くなった酸素にも助けられて順調にガラガラと下る、白出沢を渡ると林道歩きとなり、あとは新穂高温泉まで、一気に駆け飛ばした。

登山センターからは、タクシーで日帰り温泉『ひがくの湯』で寛いでから松本駅へ出て、帰京となった。メンバーの協力と天候に恵まれて、素晴らしい山行が出来たことに感謝したい。

(記&写真・涌井 良明)

